



◎ 小中一貫教育を切り拓く（その2）



前号では「縦方向の見方」に基づく「連続的な教育」について触れました。

そこで、今回は、次の2点について述べたいと思います。

- 連続的な教育が目指すもの
- 連続的な教育の、もう一つの意義

(3) 「連続的な教育」と「キャリア教育」

「連続的な教育」が目指す先には何があるでしょうか。

子どもはどこに向かって連続的に成長していくのでしょうか。

その答は一つです。変化の激しい社会の中でも、心豊かに自分らしく自己の未来を切り拓く力や、共助や社会参画の意識を持って社会の未来を切り拓く力を持った人への成長を目指しています。

ここまで述べるとお気づきだと思いますが、「連続的な教育」が目指す先には「キャリア教育が目指す人づくり」があるのです。

小中一貫教育は、キャリア教育を中心にして取り組みましょう。

お知らせ

現在、飯塚市教育委員会では「キャリア教育を中心とした小中一貫教育」の全体構想図を作成中です。近日中に完成版が示される予定です。

これを大いに活かし、穂波東校の取組を充実させていきましょう。

(4) 連続的な教育～もう一つの意義～

子どもにとって指導者（担任、教科担任等）が変わることは、大きな出来事です。そして、指導者が変わることで、これまでの学習や生活のルールやスタイル等が変わることがあります。また、以前やったことと同じような学習活動を再びやらされることもあります。

このようなことは、現実には起こり得る事かもしれません。しかし、このようなことが沢山あったり、指導者の丁寧さを欠いたりした場合、子どもにとってギャップを感じるものになっていきます。

「小中9年間を通して、同じルールやスタイルを確立すること」、「子どもの発達に合わせてルールやスタイルを段階的に変えること」や、「小中9年間を通して、同じような学習活動を減らしていくこと」等は、「子どもの側に立った連続的な教育」を実現する第一歩であると言えます。

次回「だより」では、「子どもの側に立った連続的な教育」について、「カリキュラムマネジメント」と「働き方改革」の観点から述べていきたいと思います。